

消された吉備王国③
～京都祇園祭のルーツと吉備～
総合情報学部 社会情報学科 志野 敏夫

Keywords: 吉備聖霊、良御前、下道臣前津屋

1. 研究目的

古代吉備の歴史は、考古学の研究からは日本史の上で大変に重要な位置を占めていたはずであることが分かってきている。ところが、例えば『古事記』『日本書紀』にある神話では、出雲・島根県に重点が置かれていて、吉備の様子はほとんど知ることができず、そのためもあって、その重要さを全く知ることができない。そこでかつて、記紀を再検証し、そこに隠された吉備諸族によるヤマト王権に対する祟りを推測した。このことを検証するために、怨霊退散を願って行われた京都の祇園祭を検討した。

2. 祇園祭のルーツと吉備聖霊

京都祇園祭の淵源として考えられているのが、貞観5（863）年に神泉苑で催された御霊会（ゴリョウエ）である。これは、「崇道天皇、伊予親王、藤原夫人、観察使、橘逸勢、文室宮田麻呂」6人の御霊によって京都に疫病が流行したと考え、これを祓うための儀式であった。これら怨霊は後に御霊神社に祀られることとなった。さらにその後、観察使が省かれ、代わって井上皇后、他戸親王、火雷（天）神と、吉備大臣ないしは吉備聖霊が加えられ、さらに御霊神社は上御霊神社と下御霊神社とに別れて今に至っている。火雷天神とは菅原道真で、吉備聖霊以外はみな怨霊として有名な人物たちであるが、吉備聖霊だけがその正体が不明のまま祀られているのである。

3. 良御前と吉備の3反乱

現在、上御霊神社では吉備聖霊を吉備大臣と称し、吉備真備だと考えている。しかし『梁塵秘抄』に「一品聖霊吉備津宮、新宮本宮内の宮、隼人崎、北や南の神客人、良御前は恐しや」とあり、御霊神社の吉備聖霊は、この吉備津神社の良御前であると考えられる。吉備津神社の社伝では良御前は温羅であるとされるが、以前考察したように、『日本書紀』に記される吉備の3反乱で族滅させられたことによる祟りを恐れていた、とするならば、良御前＝温羅は下道臣前津屋ではなかったかと考える。彼は自分と雄略天皇に見立てた女性や鶏を闘わせたことで、謀反を企てたとされ、族滅されたのである。闘鶏は占いでもあり、つまり前津屋は自身が天皇になれるかどうかを占ったのであるが、実は彼にはその資格があったのではないか。応神天皇は兄媛を追って吉備に来て葦守宮に「移居」したという。一方、その5世紀初頭に作られたのが、当時最大の古墳であった造山古墳である。応神天皇は前津屋を生み、吉備で没したのではなかったか。したがって、前津屋には皇位を継承する資格があり、ゆえに雄略は、他のライバルを殺したのと同じように、前津屋を滅ぼしたのではなかっただろうか。



京都 上御霊神社